

平成 21 年平均 消費者物価地域差指数の概況

1 地方別の物価水準

平成 21 年平均消費者物価地域差指数（全国平均 = 100）の総合指数（持家の帰属家賃を除く）を地方別にみると、最も高いのは、関東の 102.9 で、次いで近畿が 101.7、北海道が 101.6、東海が 100.4、北陸が 100.2 となっている。

一方、最も低いのは、沖縄の 96.0 で、次いで九州が 96.9、四国が 97.5、東北が 98.4、中国が 99.4 となっている（図）。

2 都市階級別の物価水準

都市階級別にみると、大都市が 104.3、中都市が全国平均と同じ 100.0、小都市 A が 98.7、小都市 B・町村が 97.1 となっており、大都市は小都市 B・町村に比べ 7.4% 高くなっている。

3 都道府県庁所在市別の物価水準

都道府県庁所在市別にみると、最も高いのは、横浜市の 110.2 で、次いで東京都区部が 110.0、大阪市が 107.1、静岡市が 105.5、金沢市及び京都市が共に 105.3 などとなっている。

一方、最も低いのは、宮崎市の 96.6 で、次いで秋田市が 97.5、那覇市が 97.8、前橋市が 98.8、松山市が 99.2 などとなっている。

なお、横浜市は宮崎市に比べ 14.1% 高くなっている。

図 地方別消費者物価地域差指数

